

大学生の声を握りしめて、省庁交渉 愛知民青同盟



民青同盟愛知県委員会と学生同盟員らは19日、コロナで苦しむ学生の要求をもつて萩生田光一文科大臣あてに緊急要請を行いました。緊急事態宣言が発令される下で、要請はオンラインで行い、日本共産党の、もとむら伸子衆院議員や、すやま初美愛知7区候補(党県副委員長)、日進市の五島未来市議が同席しました。

きるよう、①大学が行うPCR検査費用を支援②学内の消毒費用の補助▼学生緊急支援給付金の拡大などを訴えました。
 「文部省に届けるから声を寄せて欲しい」とSNSで呼びかけ、30を超える全国の大学生から痛切な声が、アンケートには170を超える回答が寄せられました。

「オンライン授業はもう限界」「キャンパスに一步も足を踏み入れていないのに施設使用料を請求されるのは納得できない」「精神がおかしくなり退学したいと親に話すと関係が悪化した」など、切実な声がぎっしり書かれた文書を文科省の担当者に届きました。

要請に対し、文科省の担当者は給付制奨学金と授業料等減免制度については今の制度を説明し、対面授業については文部科学省としても必要であると考え、感染症対策の予算を大学に出しているなどと回答しました。

水はゆずれない

リニアキャラバン もとむら、しまづ氏ら



事専務、吉田町の増田剛士町議会議長、富士フィルム吉田南事業所の長岡正所長、うなぎ漁協組合長の方々と懇談しました。

一昨年、大井川流域8市2町共同で水資源・自然環境の保全を求める意見書を採択。リニア建設に賛成の人も含めて採択したといえます。

増田氏は「伏流水があるから企業が集まっている。大井川の水があつてこそこの町。リニア建設に反対ではないがJR東海が水量減少について科学的に証明してもらわなければ信用できない」と強調しました。

リニアに対する態度は様々ですが、どこでも工事による大井川の水枯れに不安が語られました。



日本共産党の、もとむら伸子衆院議員、しまづ幸広前衆院議員は14日、静岡県委員会のリニアキャラバンで吉田町、牧之原市を訪問し、関係者と懇談しました。鈴木ちか静岡2区候補、大石巖・吉田町議(町副議長)、藤野守・牧之原市議、岡崎平

作党中部地区委員長も同行しました。牧之原市のJAハイナンの田中義孝常務理事、八木達良代表理

罰則とんでもない

保健師と懇談 もとむら氏

日本共産党の、もとむら伸子衆院議員と岡田ゆき子名古屋市議は17日、市内で新型コロナ感染症の対応に迫られる保健センターの職員と懇談しました。12月に続いて2回目の今回は、愛知県にも緊急事態宣言が発令される下で保健師や陽性者の保護施設が不足している現状が相次いで出されました。

保健師の方々は、菅政権が入院拒否や疫学調査に協力しない人に罰則を科そうとしていることについて、「疫学調査は信頼関係をつくってどれだけ話してもらおうか。罰金なんてしたくない」と反対。「そもそも入院させたいのにできない状況がある。肺炎の可能性のある人もなかなか入院できない」と切実な実態を告発しました。もとむら氏は「コロナ禍で虐待や産後うつ、自死も増えている、保護者を支援するためにも保健師を増やさないと」と強調。岡田市議は「広島県が無症状感染者の把握、保護を目的に大規模検査に乗り出している。名古屋市でも実施するよう求めていく」と話しました。



もとむら氏は「国交省は推進者であり第三者ではない。命の水はゆずれないですね」、しまづ氏は「国は赤字の事業に3兆円もの財政投融資を決めた。党は自然環境の破壊、住民合意を得ないリニアに反対ですが、水問題の一致点で頑張っていく」と語りました。

リニアキャラバンは3日目で、引き続き、大井川流域の自治体を訪問します。